第２章　　第３次計画の取組結果と課題

第１　第３次計画における取組と成果

取組の内容

（１）子ども読書活動推進のための４つの項目と３つの視点

第３次計画では、子どもが本と親しむようになるためには、まずは、本の楽しさや魅力と出合うことが大切であり、本との良い出合いを繰り返すことによって読書習慣を育み、さらには自分の課題に応じて必要な情報を読み取り活用する力を身につけていくことをめざして、以下の４つの項目に沿った取組を実施してきました。

「子どもが本と出合うために（きっかけづくり）」
「子どもが本と親しむために（本を読むことの習慣化）」
「子どもが目的に応じて読む力をつけ、本から学ぶために（読む力、考える力の育成）」
「子どもの読書環境づくりを支える人と体制をつくるために（前記３項目の取組のベース）」

なお、取組を進めるにあたって、次の３つの視点を重視して取組みました。

ア.家庭、学校、地域、街なかで、乳幼児や児童への読み聞かせの機会の拡大
イ.読書離れが進む中高生が、読みたいと思う魅力的な本と出合う機会の拡大
ウ.公立図書館司書、司書教諭*11 及び学校司書*12 を含めた教職員、子どもに関係する施設職員、保護者、読書活動ボランティア等の子どもの読書活動に関わる人材の確保及びスキル向上並びに支援人材同士で、相談・協力・連携できるネットワークづくり

（２）３つの視点に沿った取組の成果

ア．家庭、学校、地域、街なかで、乳幼児や児童への読み聞かせの機会の拡大

図書館でのおはなし会や、平成 29 年度より開始した商業施設等でのえほんのひろば*13、作家が学校園に訪問するオーサービジット事業*14 等により、「家庭、学校、地域、街なかで、乳幼児や児童への読み聞かせの機会」を拡大しました。

イ．読書離れが進む中高生が、読みたいと思う魅力的な本と出合う機会の拡大

平成 27 年度から開催している大阪府中高生ビブリオバトル*15 大会や、府立中央図書館におけるＹＡ（ヤングアダルト）*16 コーナー及びＹＡ向けホームページの充実、平成 30 年度から開始した府の公式 Twitter による中高生向けの本紹介等により、「読書離れが進む中高生が、読みたいと思う魅力的な本と出合う機会」を拡大しました。

ウ．公立図書館司書、司書教諭及び学校司書を含めた教職員、子どもに関係する施設職員、保護者、読書活動ボランティア等の子どもの読書活動に関わる人材の確保及びスキル向上並びに支援人材同士で、相談・協力・連携できるネットワークづくり

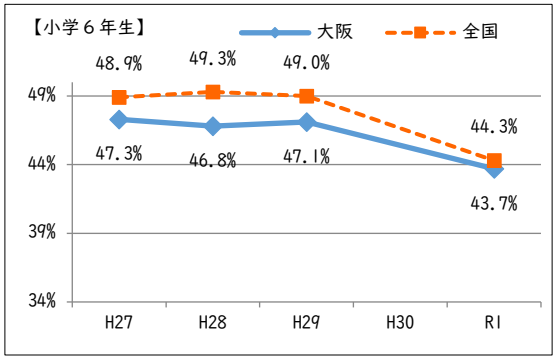
毎年度、学校図書館関係者や公立図書館司書、読書活動ボランティア、その他子ども読書に関わる支援者に対して研修や講座等を実施することにより、「子どもの読書活動に関わる人材の確保及びスキル向上並びに支援人材同士で、相談・協力・連携できるネットワーク」をつくりました。

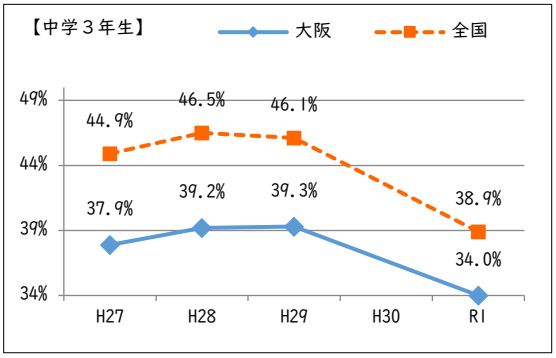
（３）成果指標の達成状況

成果指標：「読書が好き」な子どもの割合を全国平均以上とする。

「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）（令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、調査は実施なし）における府の「読書が好き」な子どもの割合（令和元年度）は、小学６年生：43.7%（全国 44.3%）、中学３年生：34.0%（全国 38.9%）となっており、全国平均には達していませんが、第３次計画に基づく取組を実施した結果、「読書が好き」な子どもの割合は全国平均と大阪府平均の差を縮めることができました。

○「読書が好き」な児童・生徒の割合





（※）平成 30 年度は質問項目なし

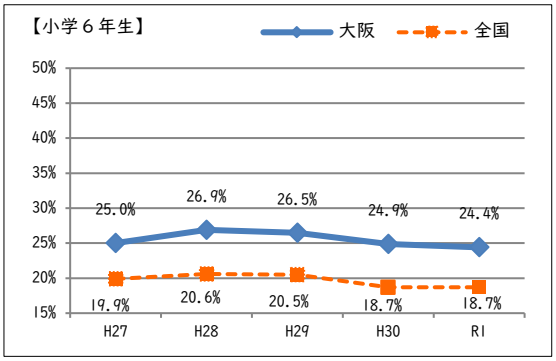
第２　子どもの読書活動の現状と課題

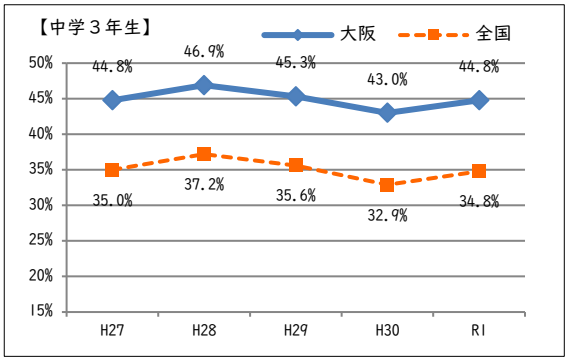
１．子どもの読書活動の現状

（１）全国学力・学習状況調査（文部科学省）

ア．「全く本を読まない」子どもの割合

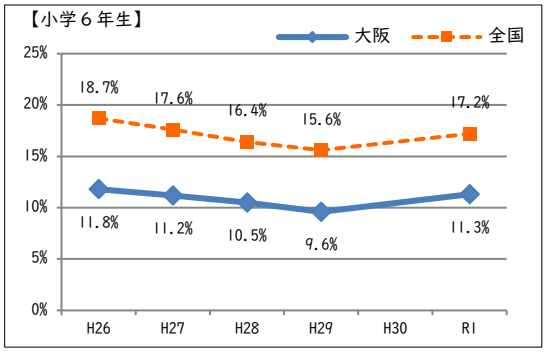
学校の授業時間以外の普段の日（月曜日から金曜日）に「全く本を読まない」子どもの割合は、小学生に比べ、中学生は高くなっています。また、府の割合は、全国平均よりも高くなっています。

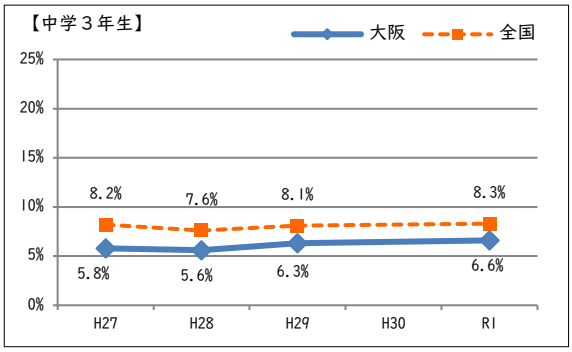




イ．週１回以上、学校や地域の図書館へ行く子どもの割合

週に１回以上、学校や地域の図書館へ行く子どもの割合は、小学生に比べ、中学生は低くなっています。また、府の割合は、全国平均よりも低くなっています。





（※）平成 30 年度は質問項目なし

（２）令和元年度大阪府子ども読書活動調査（大阪府教育庁）

大阪府では、5年に一度、子ども読書活動推進計画の策定に際して、子どもの読書活動の状況等を把握・分析することを目的に子ども読書活動調査を実施し、計画内容と施策に反映しています。

このたび、第4次計画の策定にあたり、府内の子ども・保護者の読書活動に関する意識や習慣、学校・教育保育施設・社会教育施設における子ども読書活動推進の取組状況等を調査しました。

ア．調査名称

「令和元年度大阪府子ども読書活動調査」（以下、「令和元年度読書調査」という。）

イ．調査時期

令和元年 12 月から令和２年２月

ウ．調査対象

（ア）国公私立の小中高支援学校（義務教育学校含む）の児童・生徒〔抽出調査〕
（小学５年生：1,645 人　、中学２年生：1,698 人　、高校２年生：1,759 人）

（イ）保護者（（ア）の児童・生徒の保護者）〔抽出調査〕

（ウ）国公私立小中高支援学校（義務教育学校含む）〔全数調査〕

（エ）国公私立幼稚園（認定子ども園等含む）〔全数調査〕

（オ）公私立保育所（認定子ども園等含む）〔全数調査〕

（カ）公立図書館（分館、公民館図書室含む）〔全数調査〕

（キ）公民館（（カ）を除く）、公民館類似施設〔全数調査〕

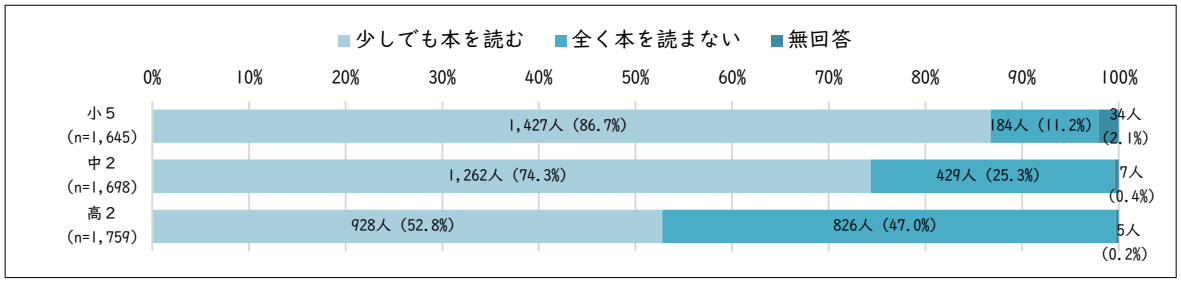
（ク）青少年教育施設〔全数調査〕

（第４章「第１　令和元年度大阪府子ども読書活動調査」参照）

エ.調査結果

（ア）学校の授業時間以外で「全く本を読まない」子どもの割合

全国学力・学習状況調査と同様に、小学生に比べ中学生になると、学校の授業時間以外「全く本を読まない」子どもの割合は、高くなっています。高校生では、約半数の子どもが全く本を読まないという結果となりました。



（イ）読書をする時間帯（学校で授業のある日）

（調査対象：（ア）で「全く本を読まない」と回答した児童・生徒以外）

小学生、中学生では、「登校して授業が始まるまでの時間」の割合が高くなっています。これは、一斉読書の取組の影響があるものと考えられます。

また、「帰宅してから寝るまでの時間」に読書をする子どもの割合も高くなっています。その他の時間帯では、読書をする子どもの割合は低くなっています。

	朝、登校するまでの時間	登校して授業が始まるまでの時間	休み時間	昼休み時間	放課後、下校するまでの時間	帰宅してから寝るまでの時間	平日は読書をしない	無回答
小５ (n=1,461)	142人 (9.7%)	720人 (49.3%)	455人 (31.1%)	195人 (13.3%)	136人 (9.3%)	766人 (52.4%)	178人 (12.2%)	19人 (1.3%)
中２ (n=1,269)	75人 (5.9%)	809人 (63.8%)	246人 (19.4%)	161人 (12.7%)	56人 (4.4%)	479人 (37.7%)	110人 (8.7%)	17人 (1.3%)
高２ (n=933)	107人 (11.5%)	266人 (28.5%)	137人 (14.7%)	51人 (5.5%)	82人 (8.8%)	470人 (50.4%)	145人 (15.5%)	13人 (1.4%)

（ウ）読書をする理由（調査対象：（ア）で「全く本を読まない」と回答した児童・生徒以外）

「本の内容を楽しむことができる」がどの学年でも最も割合が高くなっています。また、「知らなかったことを知ることができる」は、学年が高くなるにつれて割合が低くなっています。

	気分転換になる	感動を得ることができる	本の内容を楽しむことができる	いろいろな人の考え方に触れることができる	空想したり夢を描いたりすることができる	趣味を深めることができる	文章を読む力がつく	他の人と話す話題が増える
小５ (n=1,461)	772人 (52.8%)	315人 (21.6%)	1,012人 (69.3%)	297人 (20.3%)	596人 (40.8%)	425人 (29.1%)	639人 (43.7%)	532人 (36.4%)
中２ (n=1,269)	592人 (46.7%)	401人 (31.6%)	870人 (68.6%)	276人 (21.7%)	423人 (33.3%)	375人 (29.6%)	449人 (35.4%)	249人 (19.6%)
高２ (n=933)	466人 (49.9%)	308人 (33.0%)	645人 (69.1%)	249人 (26.7%)	279人 (29.9%)	264人 (28.3%)	264人 (28.3%)	143人 (15.3%)

	言葉の表現力をつけることができる	物事を深く考えられるようになる	勉強の役に立つ	知らなかったことを知ることができる	わからない	その他	無回答
小５ (n=1,461)	409人 (28.0%)	330人 (22.6%)	542人 (37.1%)	907人 (62.1%)	76人 (5.2%)	170人 (11.6%)	16人 (1.1%)
中２ (n=1,269)	321人 (25.3%)	234人 (18.4%)	264人 (20.8%)	561人 (44.2%)	85人 (6.7%)	83人 (6.5%)	11人 (0.9%)
高２ (n=933)	214人 (22.9%)	170人 (18.2%)	130人 (13.9%)	336人 (36.0%)	43人 (4.6%)	35人 (3.8%)	6人 (0.6%)

（エ）読書をしない理由（調査対象：（ア）で「全く本を読まない」と回答した児童・生徒）

学年が上がるにつれて、「読書をする時間がない」と回答する子どもの割合が高くなっています。

また、「読みたいと思う本がない」「本を読むのがめんどう」と回答する子どもの割合は、どの学年も高くなっています。

	読書をする時間がない	読みたいと思う本がない	どの本を読んで良いかわからない	読書をする必要性を感じない	本を勧める人が周りにいない	本の値段が高い	地域の図書館が近くにない	本屋が近くにない
小５ (n=184)	61 人 (33.2%)	98 人 (53.3%)	24 人 (13.0%)	39 人 (21.2%)	16 人 (8.7%)	18 人 (9.8%)	8 人 (4.3%)	13 人 (7.1%)
中２ (n=429)	160 人 (37.3%)	212 人 (49.4%)	48 人 (11.2%)	95 人 (22.1%)	34 人 (7.9%)	65 人 (15.2%)	16 人 (3.7%)	40 人 (9.3%)
高２ (n=826)	397 人 (48.1%)	323 人 (39.1%)	88 人 (10.7%)	102 人 (12.3%)	46 人 (5.6%)	76 人 (9.2%)	22 人 (2.7%)	27 人 (3.3%)
	家に読みたい本がない	学校図書館（室）が開いていない	文字を読むのが苦手	本を読むのがめんどう	友だちや家族が本を読んでいない	わからない	そ の 他	無 回 答
小５ (n=184)	60 人 (32.6%)	1 人 (0.5%)	53 人 (28.8%)	82 人 (44.6%)	21 人 (11.4%)	15 人 (8.2%)	18 人 (9.8%)	19 人 (10.3%)
中２ (n=429)	107 人 (24.9%)	4 人 (0.9%)	69 人 (16.1%)	182 人 (42.4%)	29 人 (6.8%)	40 人 (9.3%)	26 人 (6.1%)	39 人 (9.1%)
高２ (n=826)	130 人 (15.7%)	1 人 (0.1%)	137 人 (16.6%)	296 人 (35.8%)	48 人 (5.8%)	60 人 (7.3%)	33 人 (4.0%)	54 人 (6.5%)

（オ）読書をする時間がない理由

（調査対象：（エ）で「読書をする時間がない」と回答した児童・生徒）

「塾や勉強」と回答する子どもの割合がどの学年でも高く、中学生になると「部活動」、高校生になると「部活動」や「アルバイト」で読書をする時間がない子どもの割合も高くなっています。

また、全体的に回答割合の高い「テレビ」や「友だちとの遊びや付き合い」、小学生の回答割合が高い「ゲーム」、特に中高生の回答割合が高い「インターネット・メール・ＳＮＳ・電話」も読書をする時間がない主な理由となっています。

	塾や勉強	部 活 動	学校での放課後活動	習い事やボランティア活動	家事・手伝いや家の用事など	アルバイト	テ レ ビ	インターネット・メール・SNS・電話
小５ (n=61)	27 人 (44.3%)	—	2 人 (3.3%)	24 人 (39.3%)	11 人 (18.0%)	—	27 人 (44.3%)	18 人 (29.5%)
中２ (n=160)	91 人 (56.9%)	120 人 (75.0%)	15 人 (9.4%)	42 人 (26.3%)	30 人 (18.8%)	—	54 人 (33.8%)	100 人 (62.5%)
高２ (n=397)	160 人 (40.3%)	200 人 (50.4%)	10 人 (2.5%)	32 人 (8.1%)	56 人 (14.1%)	119 人 (30.3%)	109 人 (27.5%)	204 人 (51.4%)
	友だちとの遊びや付き合い	ゲ ー ム	漫画・雑誌	そ の 他	無 回 答			
小５ (n=61)	24 人 (39.3%)	36 人 (59.0%)	27 人 (44.3%)	7 人 (11.5%)	1 人 (1.6%)			
中２ (n=160)	73 人 (45.6%)	73 人 (45.6%)	48 人 (30.0%)	10 人 (6.3%)	2 人 (1.3%)			
高２ (n=397)	151 人 (38.0%)	110 人 (27.7%)	83 人 (20.9%)	22 人 (5.5%)	6 人 (1.5%)			

２．調査結果から見える課題

「令和元年度読書調査」結果における「読書をしない理由」のうち、特に回答割合の高かった「読書をする時間がない」「読みたいと思う本がない」「本を読むのがめんどう」の３つの理由を子どもの読書活動における課題と捉え、子どもの読書活動を取巻く社会情勢の変化や国の計画策定における有識者意見等を踏まえて、次のとおり要因を分析しました。

〇読書をしない理由（再掲）

	読書をする時間がない	読みたいと思う本がない	どの本を読んで良いかわからない	読書をする必要性を感じない	本を勧める人が周りにいない	本の値段が高い	地域の図書館が近くにない	本屋が近くにない
小５ (n=184)	61 人 (33.2%)	98 人 (53.3%)	24 人 (13.0%)	39 人 (21.2%)	16 人 (8.7%)	18 人 (9.8%)	８人 (4.3%)	13 人 (7.1%)
中２ (n=429)	160 人 (37.3%)	212 人 (49.4%)	48 人 (11.2%)	95 人 (22.1%)	34 人 (7.9%)	65 人 (15.2%)	16 人 (3.7%)	40 人 (9.3%)
高２ (n=826)	397 人 (48.1%)	323 人 (39.1%)	88 人 (10.7%)	102 人 (12.3%)	46 人 (5.6%)	76 人 (9.2%)	22 人 (2.7%)	27 人 (3.3%)
	家に読みたい本がない	学校図書館（室）が開いていない	文字を読むのが苦手	本を読むのがめんどう	友だちや家族が本を読んでいない	わからない	そ の 他	無 回 答
小５ (n=184)	60 人 (32.6%)	１人 (0.5%)	53 人 (28.8%)	82 人 (44.6%)	21 人 (11.4%)	15 人 (8.2%)	18 人 (9.8%)	19 人 (10.3%)
中２ (n=429)	107 人 (24.9%)	４人 (0.9%)	69 人 (16.1%)	182 人 (42.4%)	29 人 (6.8%)	40 人 (9.3%)	26 人 (6.1%)	39 人 (9.1%)
高２ (n=826)	130 人 (15.7%)	１人 (0.1%)	137 人 (16.6%)	296 人 (35.8%)	48 人 (5.8%)	60 人 (7.3%)	33 人 (4.0%)	54 人 (6.5%)

（１）分析結果

ア.「時間がない」➡ 読書時間を確保できない、読書のために時間を割かない

「令和元年度読書調査」において、「読書をする時間がない」理由は、「部活動」「塾や勉強」「インターネット等」と回答する割合が高くなっています。

上記の理由のうち、「部活動」や「塾や勉強」等、子どもが自由に時間の使い方を決めることができない活動がある一方で、５年前と比較して、子どものインターネットの平均利用時間が増加しており、その内容は動画視聴、コミュニケーション（ＳＮＳ）、ゲーム、音楽視聴等の割合が高く、電子書籍の割合は低くなっています。（第１章「第４ 子どもの読書活動を取巻く社会情勢の変化」参照）

この結果から、「読書が好き」な子どもの割合が減少傾向にある要因の一つとして、読書以外（インターネットを利用した動画視聴、コミュニケーション（ＳＮＳ）等）のことに多くの時間を費やすため、読書に時間を割かない子どもが増加していることがあると考えられます。

イ.「読みたいと思う本がない」➡ 興味を持てるような本がない

「読みたいと思う本がない」と回答した要因については、主に次の３点が想定されます。

・本自体に興味・関心が向けられていない
・身近な場所にある本が、読みたいと思う本ではない
・身近な場所に本がない

「本自体に興味・関心が向けられていない」については、もともと読書への興味・関心がない子どもや必要性を感じていない子ども、分析結果アで示した読書以外のことに興味・関心が向けられて、読書への興味・関心が薄れている子どもがいることが考えられます。

「身近な場所にある本が、読みたいと思う本ではない」「身近な場所に本がない」については、学校図書館（室）の開館割合が増加していることや、学校や教育保育施設と公立図書館の連携割合が増加していることなどから、５年前と比較すると読書環境の整備は進んでいると考えられますが、それらの環境で子どもが興味を持てるような本がないということが想定されます。

「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」(平成28年度 文部科学省)によると、「読書を行っていない高校生は、中学生までに読書習慣が形成されていない者と、高校生になって読書の関心度合いが低くなり本から遠ざかっている者に大別されると考えられる。」と言及されています。

また、「家に読みたい本がない」「本の値段が高い」「本屋が近くにない」などの回答もあることから、様々な事情により、身近な場所に本がない子どもがいるということも想定されます。（第４章「第１ 令和元年度大阪府子ども読書活動調査」参照）

ウ．「本を読むのがめんどう」➡ 本を読むことが面倒、文字を読むことが苦手

「本を読むのがめんどう」と回答した子どもは、「本を読まない理由」を複数選択している割合が高く、特に「読みたいと思う本がない」「読書をする時間がない」「家に読みたい本がない」「読書をする必要性を感じない」「文字を読むのが苦手」を選択している割合が高いという結果となりました。

このうち、「文字を読むのが苦手」は、読む力が身に付いていない子どもがいる可能性があり、国の有識者会議では「小学校中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子どもとそうでない子どもの違いが現れ始める。」という指摘がされています。(「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめ」（文部科学省))

○「本を読むのがめんどう」と回答した子どもの読書をしないその他の選択した回答

	読書をする時間がない	読みたいと思う本がない	どの本を読んで良いかわからない	読書をする必要性を感じない	本を勧める人が周りにいない	本の値段が高い	地域の図書館が近くにない
小５ (n=82)	35人 (42.7%)	57人 (69.5%)	15人 (18.3%)	33人 (40.2%)	11人 (13.4%)	15人 (18.3%)	7人 (8.5%)
中２ (n=182)	65人 (35.7%)	120人 (65.9%)	22人 (12.1%)	76人 (41.8%)	22人 (12.1%)	33人 (18.1%)	6人 (3.3%)
高２ (n=296)	125人 (42.2%)	149人 (50.3%)	50人 (16.9%)	75人 (25.3%)	27人 (9.1%)	38人 (12.8%)	12人 (4.1%)
	本屋が近くにない	家に読みたい本がない	学校図書館（図書室）が開いていない	文字を読むのが苦手	友だちや家族が本を読んでいない	わからない	その他
小５ (n=82)	9人 (11.0%)	41人 (50.0%)	1人 (1.2%)	34人 (41.5%)	16人 (19.5%)	7人 (8.5%)	8人 (9.8%)
中２ (n=182)	17人 (9.3%)	62人 (34.1%)	3人 (1.6%)	53人 (29.1%)	22人 (12.1%)	9人 (4.9%)	10人 (5.5%)
高２ (n=296)	12人 (4.1%)	69人 (23.3%)	1人 (0.3%)	97人 (32.8%)	32人 (10.8%)	11人 (3.7%)	9人 (3.0%)

（２）現状と課題を踏まえた施策の方向性

令和元年度読書調査結果、子ども読書活動を取巻く社会情勢の変化及び第３次計画における取組成果と課題を踏まえ、第４次計画においては、「読書のために時間を割かない」「興味を持てるような本がない」「本を読むことが面倒」など、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもがいることを踏まえた施策を講じることとします。

また、第３次計画で行った発達段階や生活の場に応じた環境整備を基礎とし、第４次計画では、発達段階ごとの特徴を更に考慮しつつ、子ども一人一人に合った読書活動を進めるための取組を一層拡大します。